

# 1. 評価結果概要表

作成日

平成 20年 6月 3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075300204		
法人名	医療法人 社団 親和会		
事業所名	グループホーム きんもくせい		
所在地	福岡県鞍手郡小竹町勝野4202-7 〒 820-1103 (電話) 09496-2-8882		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年5月23日	評定確定日	平成20年6月18日

## 【情報提供票より】(平成 20年 4月 28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 6月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人 常勤	11人 非常勤	5人 常勤換算 14,6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	1階建ての～ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,380円程度	

### (4) 利用者の概要(4月 28日現在)

登録人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	7名	要介護2	8名		
要介護3	3名	要介護4	名		
要介護5	名				
要支援1	名		要支援2	名	
年齢	平均 85歳	最低	76歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団親和会共立病院/医療法人恵和会田川慈恵病院/加藤歯科
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム前庭からホーム内の様々な場所に至るまで季節の草花が飾られており、心和む空間作りへの配慮が伺える。玄関ホールは古い帯と小物を利用して和を意識した装飾が施され、リビングから続くウッドデッキは住む人々に開放感を与え、居心地よくゆったりと過ごすことができるホームである。地域密着型サービスへ移行したことにより顔見知りの方が既に入居しているなど、スムーズなサービス利用へ繋がっている。また、この1年での職員の入れ替わりも1名と少なく、入居者同士及び職員と入居者との馴染みの関係性の維持が来ている。ホームの立地上、地域との頻繁な交流への取組みは難しいと思われませんが、今既に取り組みされていることを継続的に取組んでいただき、少しずつ地域交流が広がっていくことの期待のできるホームである

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の外部評価を受けて、職員全員で再度理念を見直すなど、具体的な改善策が見られる。
	<b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の外部評価を受けるにあたり、各ユニットで話しあい日頃のケア内容を再確認するなどの取組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 役場の職員、民生委員、地域住民の代表、家族などの参加により2ヵ月毎の運営推進会議が開催されている。行事報告に伴う改善点として意見が出たり避難場所の確保について質問ができるなど、質の向上に向けた取組みがある。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族訪問時の居室担当者からの説明や介護記録を提示しての説明、その都度の電話連絡、介護計画の見直しに伴う説明など、様々な場面で家族の思いや意向、希望・要望などの把握に努め、カンファレンスで話しあい介護計画書中に入れ込むなどの取組みがある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 日常の散歩時の挨拶、町内の文化祭への出品と見学、地域ボランティアの活用、ホーム前庭のベンチに腰掛けて道行く人々との会話など、今出来る事から少しずつ取組んでいる。今後、少しずつ地域交流が広がっていくように、今取り組んでいることを継続的に行ってほしい。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価を受けて、職員全員で再度理 念を見直しつくりあげている。理念の中に「地 域の人々と交流を図りながら…」を明確に入れ 込み、地域社会とのかかわりを意識しながらの 取組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関出入り口付近に理念が掲示してあり、月 2回のミーティング時に唱和するなどの取組み がある。また、日常のケア中に職員の気持ちの 中に理念が浸透しているか、確認・指導するな どの取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	日常の散歩時の挨拶、町内の文化祭への出品 と見学、地域ボランティアの活用など、今出来 る事から少しずつ取組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価を受けて、職員全員で再度理 念を見直すなど、具体的な改善が見られる。今 回の外部評価受審にあたり、各ユニットで話し あい日頃のケア内容を再確認するなどの取組み がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場の職員、民生委員、地域住民の代表、家族などの参加により2ヵ月毎の運営推進会議が開催されている。行事報告に伴う改善点として意見が出たり避難場所の確保について質問があるなど、質の向上に向けた取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に役場の職員の参加があり、役場との連携が図られている。ホーム便りを役場に置いたり、行事案内の送付、不明な点があればその都度相談するなど、積極的ななかかわりが見られる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	役場で行われる講習会へ参加後、資料を配布してホーム内勉強会で報告会を行うなど、職員への制度の理解を深める取組みがある。家族に対する制度についての説明等は今後の課題である。		運営推進会議やホーム便り等を利用して、広く情報を発信し、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるように支援してほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時の居室担当者からの説明や介護記録を提示しての説明、その都度の電話での連絡がある。2ヵ月毎のホーム便りの送付、遠方の家族に対しては毎月介護記録をコピーして送付するなど、個々の状況にあわせた報告がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時の居室担当者からの説明や介護記録を提示しての説明、その都度の電話連絡、介護計画の見直しに伴う説明など、様々な場面で家族の思いや意向の把握に努めている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に居室担当制であり、この1年間での辞職は1名と少なく、入居者と職員との馴染みの関係性の維持が出来ている。新しい職員が入職した場合は、入居者とコミュニケーションを密に取るように努めるなど、馴染みの関係づくりへの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ホーム単体での募集であり、募集に関しては何ら制限は設けていない。その時々において必要な職種の採用である。係り決めの際には、職員の趣味や特技を活かした係りにしたり、希望を聞くなどの配慮がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム理念に人権尊重が盛り込まれており、職員は周知している。以前は役場で行われる講話へ参加した実績があるが、昨年度の講話への参加は行われていない。広義の意味での人権研修への参加や学ぶ機会の確保までには至っていない。		職員の基本的資質でもある人権意識の喚起のために、役場で行われる講話への参加や新聞記事などを活用してのホーム勉強会での取り組み等、さまざまな機会を利用して、積極的に取り組んでほしい。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示して希望を募ったり、管理者から職員を指名して研修に参加させるなどの取り組みがある。月2回のホーム勉強会において報告を行うなどの取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人的なつきあいの中での交流が行われている。役場主催のグループホームの集會に参加し、職員同士の見学や交換体験等の意見は出るものの実施には至っていない。		始めに、職員同士の見学や交換体験に賛同している他の事業所と協働して取り組み、きっかけ作りに努めてほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホーム見学時に他の入居者と過ごしていただいたり、入居後は1対1で職員がつき頻繁な声かけを行うなど、馴染みの関係づくりへの配慮がある。地域密着型サービスへ移行したことにより顔見知りの方が既に入居しているなど、スムーズなサービス利用へ繋がっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族とのかかわり、恋愛の話、本人が輝いていた頃の話などを傾聴し分かち合い、精神的な部分で常に学び支えあう関係となるよう配慮している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族訪問時の説明やその都度の連絡、介護計画の見直しに伴う説明時などに家族の希望や意向を確認し、日々のかかわりの中から入居者希望の把握に努めている。把握した内容は、センター方式に記すことにより情報の共有に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画の見直しに伴う説明時に家族の意見を伺い、計画作成担当者、居室担当者、その日の勤務職員によりカンファレンスを開き協議するなどの取組みがある。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	3ヶ月に1度及び状態変化に応じたモニタ リングを行い、介護計画を作成してい る。月に1度程度の入居者本人や家 族の意向の確認や職員の気づきのと りまとめ等は行われていない。		状況の変化の有るなしにかかわらず、チ ームケアの観点から月に1度程度は全 ての職員の気づきを取りまとめ、入 居者の現状の把握に取り組んでほ しい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支 援をしている	月命日の日の自宅や1対1 での外出支援、その都度の 御薬師様参りへの支援など、 その時々入居者の要望や状 況に応じた支援がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を 大切に、納得が得られたか かかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医 療を受けられるように支 援している	ホーム協力医による月に 2回の往診がある。今までの かかりつけ医への診察は、 基本的には家族対応である が、定期的な診察や薬取り などは、ホームにて対応す るなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた 方針の共有 重度化した場合や終末期 のあり方について、でき るだけ早い段階から本人 や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し 合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合の対応指 針を入居時に説明を行っ ている。センター方式を採 用しており、約半数の入居 者からの聞き取りは終わ っているものの、残りはこ れからである。		センター方式の内容を充 実させる意味においても、 全入居者からの聞き取り を行ってほしい。また、 入居者の状況の変化や家 族の意識の変化等による 今後の方向性について早 めに家族との話し合いを 繰り返し、ケア関係者の 意識の統一と共有を図 ってほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの個別性や状態に合わせた 対応とプライバシーを尊重した言葉かけが見受 けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるものの、 起床の時間、日中の過ごし方や食後の過ごし方 など、入居者一人ひとりのペースを大切にした 対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	専門業者との契約により、業者栄養士が立 てたメニューに基づいて食材を配達してもら っている。調理はホーム内で調理しており、食 材の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳、食器 洗いなど入居者の役割が出来ており、職員 と一緒に進められていた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	入居者の希望があれば、夕食後でも入浴可 能である。現実には、午後から夕食前まで の入浴時間である。入浴剤や石けんなど希 望の品を使用して、入浴を楽しむための取 組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	下膳、食器洗い、水遣りなど、入居者同士が 助け合う場面が見られ、入居者間において自然 と役割が出来ており、職員はその役割に沿った 支援を行い、感謝の言葉を伝えている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	その時々希望によるドライブや散歩、前庭 ベンチでの沐浴、月命日の自宅への外出、薬師 様への参拝、1対1での外出支援など、積極的に 戸外へ出かける支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	7時から20時までは、開錠されている。担当 者を決めて、見守りや所在の確認を行うなどの 対応がある。職員は入居者の様子を良く観察し たうえで外出傾向の把握を行い、一緒に外出す るなどの支援がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練の実施があるものの、い ざという時の地域との相互協力のための働きか け等は行われていない。		緊急時の地域との相互協力にむけて、運営 推進会議やホーム便り等を利用した働きかけ を行い、体制づくりに取り組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士が立案したメニューを基に、食事摂取 量のチェックを通じて栄養バランスの把握があ る。日中はいつでもお茶が飲め、夜間はペ ットボトルにお茶を入れて居室に置くなど、水分不足に ならないための配慮がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内外の様々な場所に季節の草花が飾ら れており、心和む空間となっている。玄関ホー ルは古い帯と小物を利用して、和を意識した装 飾が施され、リビングから続くウッドデッキは 開放感を与え、居心地よくゆったりと過ごすこ とができる。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのもを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室には、テレビ、仏壇、位牌、写真、手 作りの作品、季節の生花などが持ち込まれてお り、安心して過ごすための工夫が見られた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号